TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

エフェソの信徒への手紙―恵みのスペクトル
ぼやけて見える状態から、はっきりと見える状態へ　エフェソ 4:25-32

2026 年 6 月 6 日 & 7 日
ジェシー・セザリオ　牧師

挨拶
共に礼拝を捧げている皆さん、TBC ウエスト・トウキョウ、TBC 三郷、スバ・バプテスト教会、そしてトンガ・バプテスト教会の皆さん、おはようございます。父なる神と主イエス・キリストの恵みと平安が、皆さんとともにありますように。

聖書箇所 ― エフェソ 4：25-32
25 ですから、偽りを捨て、一人一人が隣人に真実を語りなさい。私たちは互いに体の部分だからです。26 怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。27 また、悪魔に隙を与えてはなりません。28 盗みを働く者は、もう盗んではいけません。むしろ、労苦して自らの手で真面目に働き、必要としている人に分け与えることができるようになりなさい。29 悪い言葉を一切口にしてはなりません。口にするなら、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるために必要な善い言葉を語りなさい。30 神の聖霊を悲しませてはなりません。あなたがたは、聖霊によって、贖いの日のために証印を受けたのです。3 節恨み、憤り、怒り、わめき、冒瀆はすべて、一切の悪意と共に捨て去りなさい。32 互いに親切で憐れみ深い者となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。

はじめに
今日の聖書箇所を最初に読んだとき、これを「どう振る舞うべきかについてのマニュアル」のように感じるかもしれません。確かにこの箇所には、クリスチャンとしてどのように生きるべきかについての実践的な教えが含まれています。パウロは新しい信徒たち、つまり、この手紙の受取人であるエペソの教会の人々に対して、重要な生活の分野について教えています。彼らはまだ罪との葛藤を抱えていた新しいクリスチャンたちでした。しかし、この箇所に含まれているもっと深い重要な要素を見落としてはなりません。

こんな言葉を聞いたことがあるでしょうか。 「何を言うかではなく、どのように言うかが大切だ。」確かにその言葉には真実が含まれています。では、もう一つ。 「何を読むかではなく、どのように解釈するかが大切だ。」解釈は非常に重要です。それによって、自分がどのように理解するかが決まるだけでなく、誰かがその意味をどのように説明するかによっても理解が左右されます。

これは初代教会において大きな問題でしたし、今でも同じです。今も多くの説教で語られている教えは、単なる繰り返しになっているものも少なくないと思います。多くの場合、注解書の内容の受け売りになっています。聖書が語っていることを本当に理解できる方法は、一つしかありません。それは聖霊の力によってできます。

1 コリント 2:10-14「10 私たちには、神は霊を通してこのことを啓示してくださったのです。霊はあらゆることを、神の深みさえも究めるからです。14 自然の人は神の霊に属する事柄を受け入れません。その人にとって、それは愚かなことであり、理解できないのです。霊に属する事柄は、霊によって初めて判断できるからです。」

ですから、まずこの聖書箇所全体を把握することによって、今日の各箇所を整理して理解していきます。

多くの人は、おそらく次のように整理すると思います。
・25 節 ― 嘘をつかない → 真実を語る
・26-27 節 ― 怒り続けない → 気持ちを切り替える
・28 節 ― 盗まない → 与える
・29 節 ― 人を傷つける言葉を語らない → 励ましの言葉を語る
・30-32 節 ― 神を悲しませない → 神のように聖く生きる

これは決して悪いまとめ方ではありません。実際、その通りのことが書かれています。これらはどのように行動すべきかを示す命令です。しかし、聖霊がなければ聖書の意味を理解できないのと同じように、聖霊がなければその命令を実行できません。キリストに似た者となることは、まず聖霊が内におられなければ不可能です。

多くの人は、組織神学は神学校の学生のためのものだと思っています。しかし実はパウロは、このたった八節の中に神学の全体像を詰め込んでいます。
・罪論（Hamartiology）25-29 節
・サタン論（Satanology）26 節
・終末論（Eschatology）30 節
・聖霊論（Pneumatology）30 節
・キリスト論（Christology）32 節
・救済論（Soteriology）32 節

それでは、これらを一つずつ見ていきましょう。そして、この八節の中でパウロが何を教えようとしているのか、どのようにつながっているのかを理解していきましょう。

理由を忘れてはならない
パウロはこの手紙全体を通して、一つの大きなテーマに焦点を当てています。それは「奥義」です。そしてその深い奥義とは、「一致」のことです。それは、ユダヤ人と異邦人が共に神の民となり、「教会」と呼ばれる一つの共同体となることです。

エフェソ 2:16「十字架を通して二つのものを一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼしてくださったのです。」

エフェソ 3:4,6「あなたがたは、それを読めば、私がキリストの秘義をどのように理解しているのかが分かります。…すなわち、異邦人が福音により、キリスト・イエスにあって、共に相続する者、共に同じ体に属する者、共に約束にあずかる者となるということです。」

エフェソ 3:4-6「体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれたのと同じです。
主は一人、信仰は一つ、洗礼(バプテスマ)は一つです。すべてのものの父なる神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内におられます。」

この手紙には、「一致」というテーマが至る所に見られます。そして、この手紙全体を貫くテーマである以上、適用もまた「キリストのからだにおける一致」なのです。私が見てきた限り、クリスチャンにとって最大の課題の一つは一致です。不一致は、結婚を壊し、家族を壊し、教会を壊します。ですから、神の言葉が繰り返しこのことについて語るのも不思議ではありません。

そしてパウロの書簡全体を通して見ると、彼の「一致」の定義はおおよそこのようになります。一致とは、互いに一つのからだの一部として結び合わされ、それぞれに与えられた賜物を用いて共に働き、聖徒たちを整え、神の国の拡大のために仕えていくことです。しかし、一致は必ずしも同調性を意味するわけではありません。

むしろ、同調性は間違った方向です。なぜなら、それは聖霊の内なる働きによって生まれる一致ではなく、規則や圧力によって外側から作り出される一致だからです。残念ながら、今日の私たちはあまりにも自分自身の内側に意識が向き過ぎています。その結果、聖霊の臨在とは「神が個人の内に住んでおられること」だけだと考えがちです。しかし、もし本当に聖霊を経験したいなら、「教会」と呼ばれる信徒の共同体のスペクトラムの中で聖霊を経験しなければなりません。聖霊はそこに住んでおられます。

そして、ここから最初の大切な適用が導かれます。それは単なる「一致」ではありません。なぜなら、一致は自分の力で作り出せるものではないからです。一致は、聖霊の臨在と力から生まれるものです。

むしろ、この適用をより良く理解するなら、それは「一致そのもの」ではなく、一致を目指すこととして見るべきでしょう。私たちが一致を求める想いを持つことです。なぜなら2026年の自分中心の時代において、私たちはそれを大きく失っているからです。

TBCは、あちらこちらで見たことがあるかもしれないスローガンがあります。 Tokyo Baptist Church: An International Family of Believers（東京バプテスト教会 ― 国際的な信徒の家族）本当にそのように見ていますか。周りを見渡してみてください。ここにいる周りの人々に対して献身的に関わっていますか。キリストのからだにしっかりとつながることは、聖書に示された模範であるだけでなく、命令でもあります。

ヘブライ 10:25「ある人たちの習慣に倣って集会をやめたりせず、」

ここにいる人々は、皆さんの家族です。そして、この家族に対して献身的に関わる最も実践的な方法は、習慣的に仕えることです。重要なのは「習慣的に」という点です。キリストにある者として、この家族に仕えていますか？積極的にこの教会に仕えていますか？
ご存じのように、駐車場にはミニストリー・テーブルがあり、午前9時礼拝と11時礼拝の時間に開かれています。また、教会のウェブサイトには現在の奉仕一覧も掲載されています。 興味のある奉仕を何個か見て、問い合わせフォームを利用するか、聡牧師に声をかけてください。なぜなら、キリストのからだを愛するなら、キリストの教会に仕えるようになるからです。

罪と悪魔（25-29節）
25節「ですから、偽りを捨て、一人一人が隣人に真実を語りなさい。私たちは互いに体の部分だからです。」

私たちはなぜそのように生きるのかが分かったところで、パウロは旧約聖書を用いて一つの命令を与えます。
これはゼカリヤ 8:14-16 から引用されています。
「14 万軍の主はこう言われる。…16 あなたがたのなすべきことはこれである。互いに真実を語り」

パウロは、この箇所はイスラエルの回復について語られていることをよく知っていました。神が彼らを回復し、その民の中に住まわれるとき、彼らの社会は偽りや悪だくみではなく、真理と平和と公正によって特徴づけられるべきだと語られているのです。パウロは、この回復に関する預言的なビジョンを教会に適用しています。覚えておいてください。教会とは、神が聖霊によって住まわれる、回復された終末的共同体です。

そして偽りを捨てるとき、真理を語ることになります。しかしそれは単に嘘を真実に置き換えるだけではありません。さらに進んで、互いを励ます言葉を語るようになるのです。そうすることで、信徒の家族の中に一致を育み、一致を促していくのです。嘘をついたことがありますか。今日でしょうか。昨日でしょうか。今週でしょうか。嘘をつくとき、自分が誰を真似ているのか思い出させましょう。

イエスはこう言われました。
「あなたがたの父は悪魔であり、あなたがたは悪魔の願うことを行おうとしています。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つことがありません。彼の内には真理がないからです。悪魔は偽りを語るとき、自分の本性に従って語ります。なぜなら、彼は偽り者であり、偽りの源だからです。」（ヨハネ 8:44）

誰を真似したいのでしょうか。偽りの父でしょうか。それとも天の父でしょうか。そして、真理を語ることから、パウロは次の話題へと移ります。 26節「怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。」

パウロはここでも旧約聖書を引用しています。今度は詩編 4:5 です。
「怒りに震えよ、しかし罪を犯すな。／床の上で心に語り、そして鎮まれ。〔セラ〕」

「心は悪魔の遊び場だ」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。これは聖書の言葉ではありませんが、聖書的な真理を含んでいます。

ユダがその代表例です。ユダはお金のことを一番気にしていました。彼はそれしか考えることができませんでした。実際、イエスの頭に注がれた香油についてユダは怒りを表しました。そのイエスこそ、私たちのためにささげられた香り高いささげ物となられた方です。

考えてみると、外から見れば、ユダの不満はそれほど的外れには見えないかもしれません。もし私が誰かの高価なヘアオイルや、新品のコンディショナーを取ってきて、それを全部武牧師の頭にかけたとしたら、多くの人はかなり怒ると思います。

ユダは腹を立てていながらも、ユダに同意していたかもしれない人たちがユダと同じように腹を立てなかったのはなぜだと思いますか。そして、なぜ同じように無駄なことをしたと思った人がいたとしても、ユダのようにはならなかったのはなぜだと思いますか。そこには一つの違いがありました。ユダには神の聖霊がおらず、他の弟子たちには聖霊がおられたのです。他の弟子たちは、実際に何が起こっているのかを理解していました。それを神の栄光が現される出来事として解釈することができたのです。

そして、後にユダに何が起こったかを私たちは知っています。彼の内には神の聖霊がおられなかったのです。ヨハネ 13:2 にはこうあります。
「夕食のときであった。すでに悪魔は、シモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていた。」

解決されない怒りは、心の中に殺意を生み出し、私たちの間に争いを引き起こします。そして、もし聖霊があなたの内におられないなら、何が起こるでしょうか。
怒りです。そして、その怒りがくすぶり続け、成長し続けると、やがて殺意へと変わっていきます。

マタイ 5:21-22「あなたがたも聞いているとおり、昔の人は、『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。しかし、私は言っておく。きょうだいに腹を立てる者は誰でも裁きを受ける。

皆さんは毎晩、歯を磨くことの大切さを知っています。口の中に残っている食べかすによって細菌が増殖しないようにするためです。歯を磨かなければ、歯が腐ってしまうことを知っています。それは肉の性質と怒りについても、それほど変わりません。肉の性質は怒りを栄養にして増え続け、心は次第に腐り始めます。その結果、自分の中から生み出されるものも、心が腐っているのと同じように腐ったものになってしまいます。

最後に怒ったのはいつでしょうか。その怒りは、「自分は正しい」と思ったからでしょうか。もしかすると、本当にそうだったかもしれません。しかし、その怒りは今も心の中でくすぶり続けていないでしょうか。聖書は、怒りがくすぶり続けるとき、悪魔に心の足場を与えてしまうと教えています。そして気づかないうちに、暗い道へと向かっているかもしれないのです。

しかし、イエスはこう言われます。マタイ 7:17「すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。」皆さんは、どちらの木に当てはまるでしょうか。そして、どちらの木になりたいでしょうか。
28節「盗みを働く者は、もう盗んではいけません。むしろ、労苦して自らの手で真面目に働き、必要としている人に分け与えることができるようになりなさい。」

盗みとは、自分のものでないものを取ることです。土地の境界線の中のものを取る時、それは盗みです。聖書に記録されている最初の盗みが何だったか考えたことがありますか。最初の盗みは、エデンの園でエバによって行われました。彼女は木の実を取ったのです。彼女はまず神の木の実を欲し、それを取り、そして嘘をつき、その結果、死をもたらす実をアダムに与えました。そしてそのことで夫を死へと導いたのです。大変な出来事でした。

盗みについて注目すべきことは、パウロが示す「身に着けるべきこと」が、単に盗むのをやめることではないという点です。むしろ、何かが足りない、何かを必要としているがゆえに盗みを働かせるような立場の人を祝福できるようになることです。
私たちは、盗人や強盗に対してさえ与える者となるべきです。イエスはこう言われました。「あなたを徴用して一ミリオン行けと命じる者がいれば、一緒に二ミリオン行きなさい。」（マタイ 5:41）同じ原則

です。最後に、誰かがあなたの物を取ったのはいつでしょうか。そのとき、返すように要求しましたか。弁償するように求めましたか。
しかし、それはイエスが教えられたことではありません。

イエスはこう言われました。**ルカ 6:30「求める者には、誰にでも与えなさい。あなたの持ち物を奪う者から取り戻そうとしてはならない。」**

皆さんはこの原則に従って生きているでしょうか。
29 節「悪い言葉を一切口にしてはなりません。口にするなら、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるために必要な善い言葉を語りなさい。」

この箇所の「悪い（corrupt）」という言葉は、ギリシャ語では「腐る」という意味の言葉から来ています。腐った果物や腐った魚に関連する言葉です。パウロは、そのような悪臭を放つものを口から出してはならない、と言っています。つまり、人を傷つけたり、人の平安を壊したりする言葉です。そうではなく、平安をもたらし、人を建て上げる言葉を語るべきです。しかし、実際にはそういうことが起こります。誰かと口論になり、相手がひどい言葉を口にすると、自分もさらにひどい言葉を返してしまいます。仕返しです。しかし、それはイエスが教えられたことでしょうか。違います。

イエスはこう言われました。**ルカ 6:28「呪う者を祝福し、侮辱する者のために祈りなさい。」**質問です。あなたは人を祝福する人になりたいですか。それとも人を傷つける人になりたいですか。

聖霊と終わりの日
30 節「神の聖霊を悲しませてはなりません。あなたがたは、聖霊によって、贖いの日のために証印を受けたのです。」

この文はギリシャ語では「kai」で始まっていますが、ここでは「そして（and）」よりも、「つまり（namely）」と訳した方が文脈に合っています。つまり、「このようなことをしてはいけません。なぜなら、そのようなことは聖霊を悲しませるからです。」という意味です。この箇所を聞くと、「私たちが罪を犯すと、聖霊は少し悲しい気持ちになるのだろう。」と思うかもしれません。しかし、ここでパウロがこれまでずっと語ってきたことを思い出しましょう。章の冒頭に戻ってみましょう。

エフェソ 4:1-4「1 ですから、主の囚人である私は、あなたがたに勧めます。招かれたあなたがたは、その招きにふさわしく歩み、2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、3 平和の絆で結ばれて霊による一致を保つよう熱心に努めなさい。4 体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれたのと同じです。」

互いに対して罪を犯すとき、私たちは互いを傷つけ、損ない、その結果として聖霊を悲しませるのです。聖霊とは、私たち全員を一つに結び合わせるお方、神の聖霊だからです。そこに本当の問題があります。聖霊が悲しまれるのは、単に悪いことをしたからではありません。互いを傷つけ、交わりを壊してしまうからです。

しかし、良い知らせがあります。そして、それは悪魔が恐れている日でもあります。それは、私たちが向かっている「贖いの日」です。ただし、私たちが向かっている未来の日がどのようなものなのかについて、理解を少し修正する必要があると思います。

終わりの日
「贖いの日」とは、私たちが栄光のからだを受け、完全な者とされる瞬間、つまり個人として完成される日のことだと考える人もいます。しかし、その日に起こることはそれだけではありません。そのいずれ来る日は、私たち一人ひとりが聖なるスーパー人間になることよりも、神の民として一つにされることに重点があります。

ヨハネの黙示録 19、21 では、その日が結婚式のように描かれています。私たちは皆でキリストの花嫁となるのです。ヨハネ 1 や 1 ヨハネ 3 では、その日は私たちが一つの大きな家族となる日として描かれています。ローマ 8 では、私たちは王の子どもであり、相続人である者として描かれています。

また福音書では、私たちは一人の羊飼いに属する一つの群れとしてしばしば描かれています。しかし私たちはあまりにも自分自身に意識が向きすぎていて、「贖いの日」とは、ついに罪や問題、病気や苦しみや死から解放され、自分が望んでいたものを手に入れる日だと考えがちです。しかし実際には、それは高慢な考え方です。救いの物語を、自分自身が主人公の物語にしてしまっているからです。

贖いの日とは、そのようなものではありません。この手紙を受け取った人々にとって、その日はメシアが来て、すべてを回復される日でした。それは、死も、分裂も、腐敗も、神の民の中から永遠に取り除かれる日です。そして主がそうされるのは、神の民が主と共に住み、主もまた彼らと共に住み、ご自身が治められる来たるべき神の国で共に生きるためです。これは主の物語であって、あなたの物語ではありません。

ですからパウロは、エペソの人々にイスラエルの民の過去を思い起こさせています。彼がここで語る「聖霊を悲しませること」と「贖いの日」は、イザヤ書 63 章に見られる出来事と結びついています。

イザヤ 63:8-10「8 主は言われた 彼らは確かに私の民、偽りのない子らであると。そして主は彼らの救い主となられた。9 彼らが苦しむときはいつでも、主も苦しまれた。 御前に仕える御使いによって彼らを救い その愛と憐れみによって彼らを贖い 昔からずっと彼らを負い、担ってくださった。10 しかし、彼らは逆らい、主の聖なる霊を悲しませた。 それで、主は彼らの敵となり、彼らと戦われた。」

そして彼らの反抗のために、イスラエルの民は約束の地に入ることができませんでした。しかし、パウロは彼らを励まそうとしています。「心配する必要はありません。今、新しいことが起こっているのです、と。なぜなら、彼らも、そしてキリストにあるすべての信徒も、その日のために聖霊によって証印を押されているからです。

この「証印」とは、彼らが少しずつキリストのような素晴らしい人間へと成長していくことを意味しているのではありません。いいえ、それもまた高慢な考え方です。キリストの聖さは、あなたが到達できるものをはるかに超えています。たとえ地上で 500 年間聖められる歩みを続けたとして、何が得られるでしょうか。そのような方法で神の聖さに到達することは決してできません。決して神に並ぶことはできません。驚くかもしれません。しかし、これは最も慰めに満ちた言葉の一つです。

パウロが言っているのは、何をしたとしても、キリストにあるなら、あなたは聖霊によって証印を押されており、贖いの日に、神の国で平和のうちに生きるのにふさわしい者とされることが保証されています。ユダヤ人も異邦人も共に、神の民として、永遠に。それはただ神の恵みによるのであり、主が来られてすべてを正されるその日に実現されます。

なぜなら、あなたの聖さすべてキリストのうちにあり、キリストご自身でもあります。そしてそれは、主があなたとすべての神の民のために再び来られるときに完成されます。その時までの間、パウロは本当の意味での「置き換え」を教えています。つまり、何を脱ぎ捨て、何を身に着けるべきかを教えてくれます。

キリスト論と救い
31-32 節「31 恨み、憤り、怒り、わめき、冒瀆はすべて、一切の悪意と共に捨て去りなさい。32 互いに親切で憐れみ深い者となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」

ここで「親切（kind）」と訳されている言葉は、ギリシャ語で chrēstos です。これは Christos（キリスト） と一文字しか違いません。パウロは、キリストのからだを傷つけるあらゆるものを取り除きなさいと言っています。そして、それに代えて、互いに対してキリストのような姿を身に着けなさいと言っています。では、どのようにしてキリストのようになれるのでしょうか。

ここでいうキリストらしさとは、思いやりのある心を持つこと、つまり互いに対して敏感な心を持ち、相手を赦すことです。
パウロが「互いに赦し合いなさい」と言っているのは、贖いの日が来るまでの間に、人々が悪いことをし、ときには本当にひどいことをしてしまうことを知っているからです。しかし、そのようなことが起

こったとき、相手を赦すべきです。神がキリストにあって赦してくださったように。

私がカトリック学校に通っていた頃のことを思い出します。ある日、「神を描きなさい」という課題が出されました。たしか 4 年生か 5 年生だったと思います。みんなは「絵を描く時間だ！」と大喜びでした。でも、私だけは違いました。

正直なところ、何を描けばいいのか全く分からなかったのです。周りを見回すと、十字架を描いている子もいましたし、白いひげを生やしたおじいさんを描いている子もいました。また、長い髪とひげがあり、白いローブのような服を着た人を描いている子もいました。私はその絵を見てなんとなく恐怖を覚えました。

私は祈りました。どうしたらいいのか分からなかったからです。目を閉じたとき、私に見えたのはただ光だけでした。やがて授業の時間が終わろうとしていましたが、それでも何を描けばいいのか分かりませんでした。そこで私は真っ白な紙の下に自分の名前だけを書きました。それが、自分に見えたものに一番近いと思ったのです。

ところが翌日、校長室に呼ばれました。先生たちは、私が「神は何も存在しない」と考えていると思ったからです。しかし実際は、その正反対でした。私たちはしばしば、「クリスチャンらしさ」とは何かを想像します。そしてそのとき、多くの場合、自分自身をその物語の主人公にしてしまいます。自分を中心にしてしまいます。

しかし、ここで語られていることは実はその逆です。なぜなら、キリストらしくあるということは、思うよりずっとシンプルだからです。どのように、でしょうか。

ヨハネ 15:12-13「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これが私の戒めである。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと。これがわたしの命令です。友のために自分のいのちを捨てること、これ以上に大きな愛はありません。」

招き

私たちは皆、人生の中で罪と戦っています。だからといって、自分自身を責め続ける必要はありません。

箴言 24:16「正しき者は七度倒れても起き上がる。悪しき者は災いに遭ってよろめく。」私たちは他の人をも責めるべきでもありません。

箴言 14:17-18「17 敵が倒れても喜ぶな。／敵がよろめいても心を躍らせるな。18 主がそれを見て不快に思い／敵への怒りを翻さないために。」

信徒の家族の中にいる私たちは、誰一人として罪に定められてはいません。「従って、今や、キリスト・イエスにある者は罪に定められることはありません。」ローマ 8:1
人生の中で聖霊の力をまだ経験していない人がいるなら、その力、そして愛する力を経験する方法は一つしかありません。
それはイエス・キリストを通してです。

主イエス・キリストを信じてください。そうすれば救われます。もはや罪に定められることはなく、他の人を兄弟姉妹のように愛する力が与えられます。あなたは家族―キリストにある家族―に囲まれるようになります。もちろん、その家族は絵に描いたように完璧な家族ではありません。そのことを理解しなければなりません。

しかし私たちは、救い主が再び来られ、すべてを新しくしてくださる日を待ち望んでいます。私も、皆さんも、そして主を信じるすべての人も。すべては主のためです。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://gotbc.org/sg2326jp

TBC カレンダー
（TBC のスケジュールが確認できます）
https://tokyobaptist.org/calendar

★クラス 201
クリスチャンとして成長するために
6 月 14(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了したメンバーの方

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9 月 6 日(日)1:00 pm ～ 5:00 pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

全クラス申し込み：
https://t-b-c.us/classes